

ことば

着任して一カ月がたちました。もう一カ月というより、まだ一カ月？ という実感です。すべてがはじめての出会いなので、驚いたり、感動したり…。心をたくさんつかって過ごした一カ月でした。

仕事の合間に子どもたちと少しでも触れ合えるのがうれしい。先日、幼児グループの数人が帰り際、事務室の玄関で私の名を呼んでいます。「つださ～ん」「えんちょ～う」。呼び方はさまざま。「どうしたん？」と出でていくと、もう一回あの話をして、と。「あの話」とは、どうも4月のお誕生会ではなしたお話のことらしい。あおむしがいつのまにかきれいなちょうちょになったよ、という簡単なあらすじのもの。

かれらの願いをきいていてとても驚きました。話の中で私が使った表現や名前、ギャグ、細かい言い回しまでしっかり覚えていて、「ほら、あの〇〇〇っていうやつ、やって～」と言ってくれるのです。その後、他の子どもたちからもお願いされましたが、やはり細部まで覚えている。

「ことば」に対してなんて敏感なんだ！ これは「つくし」の子どもたちの特徴だと思いました。

牧師として様々なところで子どもに話す機会があります。が、現代の子はなんとなく言葉が素通りしていく印象がぬぐえません。様々なメディアや早期教育でつめこむため、かえって一つ一つの言葉への感動が薄れてしまうのだろうと思います。

「ことば」のためには、むしろ自然にゆっくり幼少期を過ごすほうがよい。急いで量を与えるより、良質な言葉をゆっくり心をこめてしっかり手渡していくことが大切なのでは？ 「つくし」の一カ月はそんな直感を私にプレゼントしてくれました。

ところで、事務室にきてくれた子どもたち。お願いされた通りもう一度お話してあげると、とても満足した様子で家路につきました。

園長 つだ かずお

※日曜あさ9時から、教会でも子どもたちのためのお話しをしています。つくしの園児や卒園生も集ってきてきています。もしご興味あれば、お越しください。親子でも参加できます。

ゴールデンウィークの只中、ご家庭でお出かけされる予定もあるかと思いますが、遠出や人ごみの中は、子どもたちにとっては、とても疲れるものです。休み明けに体調を崩す子もみられます。普段の生活リズムを崩さず、近くの公園やお散歩などにして、ご家族でゆったりと過ごしていただけたらと思います。

